

# 2025(令和7年)年度の計画

事業所・委員会名 さんさんまりんこども園・支援センター

## 【令和6年度 計画と目標の概要】

- ・保育士は最大の人的環境であり、子どもとの愛着関係を築くことが重要である。そのためには、日頃から一人ひとりの子どもとしっかり向き合い、教育的愛情を持って保育にあたらなければならない。特に、園児一人ひとりと愛着関係をしっかりと作り上げていくために大切な「愛のある言葉 (K)」「愛のある想い (o)」「愛のある眼差し (m)」の3つの要素を愛 (i) のあるこども園「i.kom」(アイ・ドットコム)をスローガンとして、保育士全員が認識して日々の保育・教育を行っていく。
- ・子どもの自立と自主性、主体性を培うための物的環境、時間的環境、社会的環境の整備に努める。(1階園庭・屋上園庭・保育室・廊下・空きスペース等の活用、教材・絵本・図鑑等の補充や整備、個別や集団でじっくりと取り組める時間の確保、季節ごとの行事や地域のイベントなど活動の工夫や参加)

### 支援【学び・支え・親子の力を引き出す場】

- セン ・利用者間の交流を充実させ、支えあう人間関係作りの場になるように努める。
- ター ・保育士は、支援者として利用者へ寄り添い、親子の成長を阻む要因の解決に努め、様々な活動を通して刺激や学びを得る機会を作り出し、親子の力を引き出すように働きかけていく。
  - ・特色や工夫のあるイベントを開催し、利用者が期待感をもって安心して楽しく参加できる子育て支援センターとする。

## 【令和6年度 報告と反省】

①**職員の資質の向上及び人材育成**については、計画的・全体的に進めると共にワークショップ形式の内部研修を実施できた。また、「保育ドキュメンテーション」による実践交流を全体職員会議で行っていった。今年は金岡アドバイザーを招聘し公開保育は行えなかったが連携はできているので今後も日程等の調整をしていく。②**計画的な保育実践や特色ある活動**については、全クラス年間のテーマ設定はできなかったが各クラスねらいを明確にした系統的・継続的な保育実践を行った。芋ほりはできなかったがプランターによる夏野菜栽培や田植えや稲刈りなどの体験活動や収穫物を利用した食育を実践した。③**保護者との信頼関係の構築**については、保護者アンケート等の関係者評価を行い園経営の客観的評価ができた。保育士は子どもの情報を保護者と共有すると共に管理職への報告・連絡・相談・確認を確実にし嘘のない保育の実現に努力した。④**環境構成の充実**について保育士は園児との愛着関係の構築の為、園児への愛のある言葉がけやかかわり方を工夫し、愛のある想いや眼差しをもって園児の思いや願いを共有することに努力できた。施設設備や教材の補充に努めると共にその使用や利用の工夫を行った。○**子育て支援センター**については、保育士は親子に寄り添った支援を行うと共に特色あるイベント等を通して利用者が期待感をもって安心して利用できる雰囲気づくりに努めた。

## 【令和7年度 目標と取り組み内容】

①	<b>【職員の資質向上及び人材育成】</b> 本年度も「専門性に基づくかかわり」の資料を基にグループごとにファシリテータを設定し、 <u>ワークショップによる保育士参加型の研修</u> を行っていく。また、本年度は新しい試みとして3園合同での保育参観を実施し正規職員他参加可能な非常勤職員も含めた研修日を設定することを考えている。広島県乳幼児教育支援センターの金岡アドバイザーを講師として招聘して <u>3園合同の保育参観研修</u> を行い、保育園グループとしての資質の向上に努める。
②	<b>【計画的な保育実践や特色ある活動】</b> 日常的な保育・教育にあたっては、ねらいを明確にした保育計画の元に設定保育を行っていく。テーマや園児の実態に沿った連続的な保育活動を行い、昨日が今日、今日が明日につながる系統的・継続的な保育を実践していく。外部講師による各種活動の他、昨年度実施できなかった <u>さつまいもの植え付け</u> を園庭の花壇で行っていく。また、今年度も夏野菜のプランター栽培やさんさんファームでの田植え・稲刈りでの成果物をクッキング等で味わう活動を通して、 <u>食育の充実</u> を図る。
③	<b>【保護者との信頼関係の構築】</b> 運動会後や発表会後の保護者アンケートを元に保護者のニーズ等も把握し行事の改善を図ると共に、年度末に実施する <u>保護者アンケート</u> を保護者評価と捉えて、次年度の園経営に生かせるよう分析・検討し紙面及びHPで配布・公開していく。また、保育士は日常的に保護者との連携を密にし、園児個々の発達や成長などの気づきを伝え、保護者の援助者としての役割も担っていく。同時に報告・連絡・相談・確認を行い、情報を共有しながら園全体で <u>嘘のない保育・教育</u> を行っていく。

④	<p>【環境構成の充実】</p> <p>人的・物的・自然・社会的の4つの環境の充実を図る。人的環境においては保育士は教育的愛情を持って思いやりのある言動で園児に接し愛着関係を構築していく。また保育士間の協働的・同僚的人間関係づくりを行い職場の雰囲気を和やかにしていく。物的環境においては、園児が自主的・自発的にそして安心・安全に活動できるよう整備していく。自然環境においては、園庭の自然環境を整備すると共に園周辺の自然環境にも触れさせ、栽培や飼育等を通して命の大切さや思いやりなどを養う。社会的環境では本園の特色の一つである異世代間交流を通して通常保育ではできないふれあい活動を行う。</p>
支援センター	<p>【学び・支え・親子の力を引き出す場づくり】</p> <p>子育て親子の交流の場として、支え合う人間関係づくりの場となるよう努める。また子育て等に関する相談、援助を実施し、保育士が支援者となって利用者に寄り添っていく。地域の子育て関連情報の提供や子育て及び子育て支援に関する講習やイベントを通して、安心して楽しく学び、過ごせる支援センターにしていく。</p>